

解説

附属中学校 2年 保健体育科

タイトル：打って、走って、盛り上がり！チームで楽しむ Baseball5

授業者：森 祐樹 教諭

解説タイトル：

戦術的思考を育てる体育授業— Baseball5 に見るコンピテンシーの形成

コンピテンシー育成開発研究所
特任講師 Claudia Gherghel

球技 ベースボール型（Baseball5）は、用具を用いない手打ち野球という特性と、5人制による少人数・スピーディーな展開を活かし、技能の習得にとどまらない社会的コンピテンシーの育成を目指した実践である。バットやグローブを用いないという条件は、技術差による参加の偏りを緩和し、全員が同じスタートラインに立つことを可能にする。その結果、生徒の関心は戦術的判断へと向けられ、協働力や問題解決力の育成に資する土壌となっている。

協働力は本実践の重要な柱である。**協働力**とは、共通の目標に向けて他者と対話し、互いの特性や状況を踏まえながら役割を調整し、よりよい成果をともに創り出す力である。Baseball5は少人数制であるがゆえに、一人ひとりの役割が明確であり、打順や守備位置の決定はチーム全体の戦術に直結する。そのため、生徒は仲間の得意・不得意や心理的負担を考慮しながら話し合いを重ね、全員が納得できる形を模索する必要がある。他者の考えを聞き、折り合いをつけながら方針を定める経験は、協働の力を育む。

さらに、本単元は問題解決力の育成にも大きく寄与している。**問題解決力**とは、課題を発見し、その原因を分析し、適切な方法を選択・実行しながら改善を図っていく力である。Baseball5のゲーム展開は速く、予期せぬ状況が連続する。生徒は試合中の失敗や成功を材料に、作戦会議で改善策を話し合い、次の試合で実行し、再び振り返るという循環を経験する。この「試す—振り返る—修正する」という往還は、問題解決のプロセスそのものであり、身体活動を通して実践的に身につけられていく。

このように、本実践はゲームという具体的活動を媒介にしながら、仲間と協働し、課題を解決へと導く一連の思考と行為のプロセスを経験させている。技能向上を目的とする体育授業の枠を越え、思考と対話を通じて戦術を構築し、改善を重ねる学びとなる。Baseball5という教材は、生徒一人ひとりがチームの一員として考え、支え合い、よりよい解を模索する場を創出し、コンピテンシーを相互に関連づけながら育成しているといえる。